

女川原子力発電所第2号機 工事計画審査資料	
資料番号	02-変 2-工-A-04-0001 改 0
提出年月日	2023年3月6日

## 残留熱除去系主要弁 要目表

2023年3月

東北電力株式会社

(7) 主要弁（常設）

		変 更 前		変 更 後		
名	称*1	E11-F003A, B*2		変更なし		
種	類	止め弁				
最 高 使 用 圧 力	MPa	3.73*3				
最 高 使 用 温 度	℃	186*3				
主 要 寸 法	呼 び 径	—*4	350A*5			
	弁 箱 厚 さ	mm	□ *3			
	弁 ふ た 厚 さ	mm	□ *3			
材 料	弁 箱	—	SCPH2			
	弁 ふ た	—	SCPH2			
駆 動 方 法	—	電気作動				
個 数	—	2				
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	*3 E11-F003A 残留熱除去系A系	*3 E11-F003B 残留熱除去系B系		
	設 置 床	—	*6 原子炉建屋 O. P. 15. 00m	*6 原子炉建屋 O. P. 15. 00m		
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—			
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—			
				R-1F-1	R-1F-11	
				床上0.58m以上	床上0.59m以上	

- 注記\*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。  
 \*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「F003A, B」と記載。記載内容は、設計図書による。  
 \*3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。  
 \*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。  
 \*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「350」と記載。記載内容は、設計図書による。  
 \*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

		変 更 前			変 更 後				
名	称*1	E11-F004A, B, C*2			E11-F004A, B		E11-F004C		
種	類	止め弁			変更なし				
最 高 使 用 圧 力	MPa	8.62*3							
最 高 使 用 温 度	℃	302*3							
主 要 寸 法	呼 び 径	250A*5							
	弁 箱 厚 さ	mm	□		*3				
	弁 ふ た 厚 さ	mm	□		*3				
材 料	弁 箱	SCPH2			変更前に同じ				
	弁 ふ た	SCPH2							
	弁 体	SCPH2*3							
駆 動 方 法	—	電気作動			変更なし				
個 数	—	3							
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	E11-F004A 残留熱除去系A系 *3	E11-F004B 残留熱除去系B系 *3				E11-F004C 残留熱除去系C系 *3	
	設 置 床	—	原子炉建屋 O. P. 11. 50m *6	原子炉建屋 O. P. 11. 50m *6				原子炉建屋 O. P. 11. 50m *6	
溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—			R-MB1F-1	R-MB1F-3	R-MB1F-3		
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—			床上0.00m以上	床上0.53m以上	床上0.53m以上	

- 注記\*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。  
 \*2 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「F004A, B, C」と記載。記載内容は、設計図書による。  
 \*3 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。  
 \*4 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。  
 \*5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「250」と記載。記載内容は、設計図書による。  
 \*6 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

		変 更 前			変 更 後		
名	称*1	E11-F005A, B, C*2			変更なし		
種	類	逆止め弁					
最 高 使 用 圧 力	MPa	8.62*3					
最 高 使 用 温 度	℃	302*3					
主 要 寸 法	呼 び 径	—*4	250A*5				
	弁 箱 厚 さ	mm	□				
	弁 ふ た 厚 さ	mm	□				
材 料	弁 箱	—	SCPH2				
	弁 ふ た	—	SCPH2				
	弁 体	—	S25C*3				
駆 動 方 法	—	空気作動（窒素作動）					
個 数	—	3					
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	E11-F005A 残留熱除去系A系	E11-F005B 残留熱除去系B系	E11-F005C 残留熱除去系C系		
	設 置 床	—	原子炉格納容器内 0. P. 1. 15m	原子炉格納容器内 0. P. 1. 15m	原子炉格納容器内 0. P. 1. 15m		
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—				
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—				

- 注記\*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。  
 \*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「F005A, B, C」と記載。記載内容は、設計図書による。  
 \*3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。  
 \*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。  
 \*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「250」と記載。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

		変 更 前*		変 更 後		
名 称		E11-F008A, B		変更なし		
種 類	—	止め弁				
最 高 使 用 圧 力	MPa	3.73				
最 高 使 用 温 度	℃	186				
主 要 寸 法	呼 び 径	350A				
主 要 寸 法	弁 箱 厚 さ	mm				
	弁 ふ た 厚 さ	mm				
材 料	弁 箱	—	SCPH2		変更なし	
	弁 ふ た	—	SCPH2			
駆 動 方 法		—		電気作動		
個 数		—		2		
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	E11-F008A 残留熱除去系A系	E11-F008B 残留熱除去系B		
	設 置 床	—	原子炉建屋 O. P. 15.00m	原子炉建屋 O. P. 15.00m		
取 付 箇 所	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—		R-1F-1	
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—		床上0.58m以上	
				R-1F-11	床上0.59m以上	

注記\* : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

		変 更 前		変 更 後		
名	称*1	E11-F010A, B*2		変更なし		
種	類	止め弁				
最 高 使 用 圧 力	MPa	3.73*3				
最 高 使 用 温 度	℃	186*3				
主 要 寸 法	呼 び 径	—*4	250A*5			
	弁 箱 厚 さ	mm	□			*3
	弁 ふ た 厚 さ	mm	□			*3
材 料	弁 箱	—	SCPH2			
	弁 ふ た	—	SCPH2			
駆 動 方 法	—	電気作動				
個 数	—	2				
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	E11-F010A 残留熱除去系A系 *3	E11-F010B 残留熱除去系B系 *3		
	設 置 床	—	原子炉建屋 O. P. 15. 00m *6	原子炉建屋 O. P. 15. 00m *6		
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—			
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—			
				R-1F-9	R-1F-8	
				床上0.00m以上	床上2.66m以上	

- 注記\*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。  
 \*2 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「F010A, B」と記載。記載内容は、設計図書による。  
 \*3 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。  
 \*4 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。  
 \*5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「250」と記載。記載内容は、設計図書による。  
 \*6 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

		変 更 前		変 更 後		
名	称*1	E11-F011A, B*2		変更なし		
種	類	止め弁				
最 高 使 用 圧 力	MPa	3.73*3				
最 高 使 用 温 度	℃	186*3				
主 要 寸 法	呼 び 径	—*4	100A*5			
	弁 箱 厚 さ	mm	□ *3			
	弁 ふ た 厚 さ	mm	□ *3			
材 料	弁 箱	—	SCPH2			
	弁 ふ た	—	SCPH2			
駆 動 方 法	—	電気作動				
個 数	—	2				
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	*3 E11-F011A 残留熱除去系A系	*3 E11-F011B 残留熱除去系B系		
	設 置 床	—	*6 原子炉建屋 O. P. -8.10m	*6 原子炉建屋 O. P. -8.10m		
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—			
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—			
			R-B3F-10	R-B3F-10		
			床上6.40m以上	床上6.40m以上		

- 注記\*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。  
 \*2 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「F011A, B」と記載。記載内容は、設計図書による。  
 \*3 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。  
 \*4 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。  
 \*5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「100」と記載。記載内容は、設計図書による。  
 \*6 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

		変 更 前		変 更 後	
名	称*1	E11-F012A, B*2			
種	類	止め弁			
最 高 使 用 圧 力	MPa	3.73*3			
最 高 使 用 温 度	℃	186*3			
主 要 寸 法	呼 び 径	—*4	300A*5		
	弁 箱 厚 さ	mm	□*3		
	弁 ふ た 厚 さ	mm	□*3		
材 料	弁 箱	—	SCPH2		
	弁 ふ た	—	SCPH2		
駆 動 方 法	—	電気作動			
個 数	—	2			
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	E11-F012A 残留熱除去系A系 *3	E11-F012B 残留熱除去系B系 *3	
	設 置 床	—	原子炉建屋 O.P. -8.10m *6	原子炉建屋 O.P. -8.10m *6	
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—		
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—		

変更なし

- 注記\*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。  
 \*2 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「F012A, B」と記載。記載内容は、設計図書による。  
 \*3 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。  
 \*4 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。  
 \*5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「300」と記載。記載内容は、設計図書による。  
 \*6 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。



		変 更 前		変 更 後	
名	称*1	E11-F015A, B*2			
種	類	止め弁			
最 高 使 用 圧 力	MPa	8.62*3			
最 高 使 用 温 度	℃	302*3			
主 要 寸 法	呼 び 径	—*4	350A*5		
	弁 箱 厚 さ	mm	□*3		
	弁 ふ た 厚 さ	mm	□*3		
材 料	弁 箱	—	SCPH2		
	弁 ふ た	—	SCPH2		
	弁 体	—	SCPH2*3		
駆 動 方 法	—	電気作動			
個 数	—	2			
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	E11-F015A 残留熱除去系A系*3	E11-F015B 残留熱除去系B系*3	
	設 置 床	—	原子炉格納容器内 O. P. 1. 15m*3	原子炉格納容器内 O. P. 1. 15m*3	
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—		
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—		

変更なし

- 注記\*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。  
 \*2 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「F015A, B」と記載。記載内容は、設計図書による。  
 \*3 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。  
 \*4 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。  
 \*5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「350」と記載。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

		変 更 前		変 更 後		
名	称*1	E11-F016A, B*2		変更なし		
種	類	止め弁				
最 高 使 用 圧 力	MPa	8.62*3				
最 高 使 用 温 度	℃	302*3				
主 要 寸 法	呼 び 径	—*4	350A*5			
	弁 箱 厚 さ	mm	□			*3
	弁 ふ た 厚 さ	mm	□			*3
材 料	弁 箱	—	SCPH2			
	弁 ふ た	—	SCPH2			
	弁 体	—	SCPH2*3			
駆 動 方 法	—	電気作動				
個 数	—	2				
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	E11-F016A 残留熱除去系A系	E11-F016B 残留熱除去系B系		
	設 置 床	—	原子炉建屋 0. P. -8. 10m	原子炉建屋 0. P. -8. 10m		
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—			
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—			
				R-B3F-10	R-B3F-10	
				床上6.40m以上	床上6.40m以上	

- 注記\*1 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。  
 \*2 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「F016A, B」と記載。記載内容は、設計図書による。  
 \*3 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。  
 \*4 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。  
 \*5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「350」と記載。記載内容は、設計図書による。  
 \*6 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

		変 更 前		変 更 後			
名	称*1	E11-F018A, B*2		E11-F018A	E11-F018B		
種	類	止め弁		変更なし	変更なし		
最 高 使 用 圧 力	MPa	10.40*3					
最 高 使 用 温 度	℃	302*3					
主 要 寸 法	呼 び 径	300A*5					
	弁 箱 厚 さ		*3				
	弁 ふ た 厚 さ		*3				
材 料	弁 箱	SCPH2				変更なし	変更前に同じ
	弁 ふ た	SCPH2					
	弁 体	S25C*3					
駆 動 方 法		電気作動				変更なし	変更なし
個 数		2					
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	E11-F018A 残留熱除去系A系	E11-F018B 残留熱除去系B系				
	設 置 床	原子炉建屋 O. P. -8.10m	原子炉建屋 O. P. -8.10m				
溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号		—		R-B3F-10	R-B3F-10		
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—		床上6.40m以上	床上6.40m以上		

- 注記\*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。  
 \*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「F018A, B」と記載。記載内容は、設計図書による。  
 \*3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。  
 \*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。  
 \*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「300」と記載。記載内容は、設計図書による。  
 \*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉格納容器外」と記載。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

		変 更 前		変 更 後	
名	称*1	E11-F019A, B*2			
種	類	逆止め弁			
最 高 使 用 圧 力	MPa	10.40*3			
最 高 使 用 温 度	℃	302*3			
主 要 寸 法	呼 び 径	—*4	300A*5		
	弁 箱 厚 さ	mm	□*3		
	弁 ふ た 厚 さ	mm	□*3		
材 料	弁 箱	—	SCPH2		
	弁 ふ た	—	SCPH2		
	弁 体	—	SCPH2*3		
駆 動 方 法	—	空気作動（窒素作動）			
個 数	—	2			
取 付 箇 所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	E11-F019A 残留熱除去系A系*3	E11-F019B 残留熱除去系B系*3	
	設 置 床	—	原子炉格納容器内 O. P. 1. 15m*3	原子炉格納容器内 O. P. 1. 15m*3	
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—		
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—		

変更なし

- 注記\*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「名称又は弁番号」と記載。  
 \*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「F019A, B」と記載。記載内容は、設計図書による。  
 \*3：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。  
 \*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「(呼び径 A)」と記載。  
 \*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「300」と記載。記載内容は、設計図書による。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。